

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0692700016		
法人名	社会福祉法人いいで福祉会		
事業所名	グループホームひめさゆり荘2号館		
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字椿3.642		
自己評価作成日	平成 22年 10月 19日	開設年月日	平成 19年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

このホームは元診療所を改装したため廊下・トイレが広く、車椅子でも十分生活できます。長く利用していただけていると思います。
ホーム隣接の施設、祭り、行事等に出かける機会を多く持ち、楽しみのある生活が送れるよう配慮しています。
スタッフ全員が笑顔を大切にし、その人らしい生き方のために支援します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市檜町4-3-10		
訪問調査日	平成22年 11月 19日	評価結果決定日	平成22年 12月 10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が安心してふつうの暮らしを送れる家庭的な生活環境を提供するという理念を「笑顔」をキーワードとし、事業所のテーマに掲げ利用者・家族・地域住民に対し笑顔で対応し皆さんの笑顔のために 何ができるかを常に考えることを目標とし理念の実践につなげている。町の公共施設と隣接しており、広い駐車場があり、そこで町の行事が行われ、見学、参加することにより、利用者が町民と触れ合うことができています。診療所を改修した建物ではあるが、広い廊下、明るい居間、広い居室でありゆったりとした時間を明るく過ごせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、スタッフミーティング等を通じ理念を共有し、実践している。	法人の理念を基に事業所職員の話し合いによる独自の理念を作成し、常に笑顔で接することで安心してふつうの暮らしを送れる家庭的な生活環境を提供している。管理者と職員は、理念の掲示とともに折に触れ職員会議で確認し共有と実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催し等への見学参加、散歩等を通じ交流を図っている。	事業所の前で開催される夏祭りや地域の消防演習、産業祭り等のイベントを見学し、町民と触れ合い、近隣の公民館の行事参加、保育園の訪問等交流の場を確保している。今年からは積極的に民生委員等のボランティアを受入れ地域との交流に力を入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等を通じ、理解を得よう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーを増やしより良い施設運営に努めている。 運営推進会議でサービスの実際や取組み状況を報告し、そこでの意見をスタッフミーティングで報告、検討し、サービス向上に努めている。	利用者家族代表、民生委員、地域住民、包括職員等により、事業所の年間計画、状況の説明、防災協力の呼びかけ等意見交換がなされている。目標達成計画通り、委員の増員はなされているが、年4回に終わり、6回の開催には至っていない。	事業所の実情を知ってもらい、協力の依頼や、サービス向上のための様々な意見を頂くためにも年6回の開催を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーに町職員も入ってもらい情報交換行っている。 確認事項等あれば随時電話連絡等行っている。	町の保健福祉部署が渡り廊下で往来できることもあり日ごろから必要に応じて協力関係が築ける環境となっている。町職員も運営推進会議に参加し情報交換も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間防犯のための施錠以外は施錠していない。こまめな見守り、声掛けにより危険を回避するよう努め、身体拘束は行っていない。	職員は、法人による身体的拘束、虐待の防止等の研修に参加し、禁止の対象となる具体的な行為を確認している。見守りと寄り添ってケアすることを重視することにより、夜間以外は鍵をかけないことはもとより、事故防止を心がけ、身体的拘束を行わないで過ごせるような工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	荘内研修、ミーティング等を通じ虐待を行わないよう話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度利用者なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い利用者家族の理解を得るように努めている。解約の際にはその後の生活についても相談できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また職員にいつでも意見が言えるような良好な関係を築くように努めている。	職員は面会や通院時を利用し、積極的に意見要望を聞きだすことを心がけ、いつでも意見が言えるような良好な関係を築いている。家族交流会を開催し、意見を引き出す仕組みもある。出された意見等についてはスタッフ会議の中で話し合い、サービス向上につなげている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティング時、職員の見解や提案を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的な面談を行い、様々な状況は把握されている。資格取得への支援・定期昇給もあり、職員が安心して働ける環境である。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が実施する研修や置賜地区グループホームブロック会に参加しており、研修内容の報告も行われている。	法人による身体的拘束や感染症等研修が計画的に行われている。外部研修には職員全員が派遣され、会議等で報告されている。新任の職員には管理者と主任により指導されており、働きながら学べる仕組みもある。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流の場として置賜地区グループホームブロック会への積極的な参加を促しながら、ネットワーク作りや勉強会等を通じて、サービスの質の向上を図っている。	目標達成計画通り、置賜地区グループホームブロック会の研修に職員全員を派遣することにより同業者とのネットワークづくりや交流に力を入れ、また、隣接する他事業所とも日常的に交流を行っている。これらを通して得られた情報や気付きを取り入れながらサービスの質を向上させていく取組みが行われている。	

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーからの情報を参考に、本人と直接面接を行い、困っていること不安なことをよく聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望を受けて時から種々の相談に応じている。家族間での思いと本人の思いをそれぞれ大切に受けとめるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接により利用者の状況を把握し必要な支援を考え必要であれば他のサービスの紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、茶碗拭き等できることを一緒に行いながら昔の話を聞いたり、お年寄りの知恵を聞いたりし共に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、面会時等家族からの訴え、思いを聞き本人と一緒に支えていくように努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の送迎で通院し帰りに友人宅でお茶を飲んで帰荘する等大切にしている。 ドライブ、バスハイク時などなじみの場所(自宅等)を訪れたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	憩いの場として食堂を利用しそこで集まり会話等かわりを深めてもらっている。食事の際には台拭きをしてくれる利用者に他の利用者が「ありがとう」の感謝の言葉を掛けるなど支えあいながら生活している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移られた方などには面会に行ったり、情報提供をしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方々なので自分から希望の訴えはなかなか出来ないが、日々の生活の中で意向の把握に努め、本人本位の検討をしている。	利用者の歩んできた人生を大切にしながら話に耳を傾け、家族との思いや本人の思いを受け止めるよう努めている。困難な場合は、家族から聴いたり、日々の何気ない会話や寄り添いの中から暮らしの希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時家族よりなじみの暮らし方を聞き、ケアマネージャーからサービス利用の情報等を提供してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ごとのチェック表を作り一人一人の生活リズムを尊重するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の要望を聞き介護者全員のスタッフミーティングを行い作成している。	毎月のカンファレンス、3か月ごとのモニタリング、6か月の見直しと定期的に行われている。カンファレンスでは担当者が状況報告を行い、職員が意見やアイデアを出し、計画作成担当者がその結果を反映した介護計画を作成している。現状では担当者会議に家族等の参加までには至っていない。	担当者会議に家族の参加を呼び掛け、可能な限り一緒に計画の見直しを行うことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、ケース記録に個別に記録し、業務前には職員各自が必ず目を通すようにしている。スタッフミーティング時活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時地区住民、近隣公共施設、消防の協力を得ながら行っている。隣に図書館があるため散歩を兼ね利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を密にし、適切な医療が受けられるようにしている。 通院は家族にお願いしているが、医療機関へは書面や電話で必要な情報を提供している。 状況により訪問診療を受けている。	入居時に本人や家族の希望を把握し主治医、かかりつけ医を確認している。 通院は家族にお願いしているが、状況に応じて必要な情報を文書で提供し、また診察結果は家族から直接または電話等で聞き情報の共有を図りながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本体法人経営の特養看護婦と連携し、個々の利用者が適切な診療、看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に病院に赴き早期退院が出来るよう情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は法人運営の特養への移動も含め家族と十分な話し合いを持つようにしている。	入居の際、重度化した場合には話し合いをさせよう旨の説明を行うとともに、状況の変化に応じて、改めて事業所で出来ること出来ないことの説明を行い、家族と十分な話し合いを持つようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より救命講習を受けている。必要に応じて法人特養看護師より指導を受けている。 消防署職員よりAED使用の講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。近隣公共施設と公共施設防災協議会を設置し、町、消防、地区住民と協力し避難訓練を行っている。	避難訓練は年2回、夜間想定と地震発生を想定した訓練を実施している。訓練には町、消防、地域住民の協力を得て近隣公共施設との合同防災訓練として実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛け、尊厳を大切にした対応を心がけている。スタッフミーティング時職員同士での振り返りを行っている。	職員等は利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にし、誇りやプライバシーを損ねない声かけに気をつけ、慣れ慣れしい安易な言葉遣いにならないよう心がけている。また折に触れ、会議の中でケアの振り返りを行い人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ること、出来ないこと、少し援助すれば出来ること等一人一人の力に合わせて自分で決める場面を作り自己決定を尊重した係わりを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、特に日課は決めずその人のペース、希望に沿うように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方にその人の好みの服を用意してもらい、おしゃれ、身だしなみに配慮している。地区の床屋さんに来てもらったり、なじみの理容院を利用できるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ってもらったり、後片付けをしてもらったりしている。職員も一緒にテーブルで同じ食事をしている。献立は職員が作り、誕生食など各自の好みのものを聞き提供している。	共用の居間に面した台所で、3度の食事をつくり、調理の匂いや音を通してふつうの暮らしが実感できるようにしている。できる方には一緒に食事の準備や片付けの役割を担ってもらい、職員は利用者の希望を献立に取り入れ、一緒に育てた野菜等を使い食事が楽しみなよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、粥、刻み食等その人に合わせた食事を提供し、食事量、水分確保には十分配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、ほうじ茶によるうがい、口腔洗浄剤、入れ歯の洗浄等により、その人に応じた対応をしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンを把握しその人に合ったトイレ誘導等を行っている。	排泄チェック表を活用し排便のコントロールや排泄のパターンを把握し、定期的な声かけに活かし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表により排便状況を確認して対応している。 散歩等の機会を多く持ち体を動かすことで自然排便に心掛けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴を実施し、出来るだけ希望に沿うように入浴を実施している。	入浴について特に決まりはないが、入浴時間や入浴日は利用者の希望に添うよう努力している。拒否する利用者には無理強いをすることなく声かけ等工夫して週2回は入ってもらえるよう努力している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が居室で自由に休息を取ったり、ソファ等で居眠りをしたり自由に過ごしてもらっている。出来るだけ日中活動的に過ごし夜安眠できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに服薬明細書を整理し、その用法用量について確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力に応じて掃除、茶碗拭き、洗濯物たたみ等自分の役割として行ってもらっている。定期的にドライブ、バスハイク等外出の機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の機会を多く持つようにしている。買い物、ドライブ等外出の機会を持っている。通院時等家族に自宅やちょっとしたドライブ等協力してもらっている。	町の公共施設の敷地を利用し気分転換やストレスの発散、五感の刺激の機会として、できるだけ散歩を多くするような取り組みをしている。ドライブや買い物、近くの図書館など外出の機会を大切にし、また、家族の協力の元、お墓参りや自宅への外泊にも柔軟に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は持たないことにしているが、希望者には施設管理で必要時お金を使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話が出来るようにしている。手紙の事例はないが、毎月近況報告を写真を添えて家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を飾ったり、利用者と職員で作った手作りの飾り物等を飾ったりし、心地よく過ごせるよう努めている。	診療所を改修したこともあり、広い廊下で区画され広々として。大きなガラス窓のある明るく広い居間にはくつろぎのために畳の部分を作り利用者それぞれが思い思いの時間を楽しめるような工夫がある。利用者とともに作った季節の飾りつけを行い居心地のよい空間を作り出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	憩いの場として食堂を提供し、廊下にも椅子、テーブルを置き一人一人が思いどおりに過ごせるようにしている。食堂には畳の場所もあり横になってくつろぐことも出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箭など大きなものを持ち込んでいる人はいないが、家族の写真を飾ったり、自分で作った短歌を書いた色紙を飾ったり自分の時間が過ごせるようにしている。	利用者及び家族には馴染みの物を持ち込んでもらえるよう話をしている。それぞれの部屋は、利用者の好みに応じた小物や飾りがあり居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きめのマークを付けたり、ドアを居室のものとは異なった物にし、認識しやすいようにしている。必要な方には居室入り口に立体的な表札をつけ自分の居室がわかるようにしている。		